

電気通信大学情報基盤センターの設置について

電気通信大学情報基盤センター長 尾関和彦

平成18年4月1日、本学に「情報基盤センター」が設置されました。本センターは、キャンパスネットワーク分野、情報メディア教育分野、コンピューティング支援分野、図書館電子化分野、事務情報化分野の5分野において全学的なサービスを展開します。具体的には、これまで総合情報処理センターが行っていた情報ネットワークの管理・運用、演習室・図書館自習室などでの教育サービス、計算資源の提供などの業務は、そのまま本センターに引き継がれます。オンラインデータベースやオンラインジャーナルなどのサービスは、附属図書館の協力の下で本センターが行うこととなります。情報化推進本部が進めてきた無線LANプロジェクトや会議情報化プロジェクトなどは本センターに引き継がれます。また、共用性が高い事務処理システムの管理は本センターが行い、将来的にはシステム間の連携を図って、学生や教職員に対してより良いサービスができる統合的なシステムをめざします。さらに、大学教育センターやeラーニング推進センターなどに対して積極的に支援を行う予定です。全学の情報セキュリティを一元的に管理することも本センターの大きな任務の一つです。

このような組織の変更と時期を同じくして、センターのコンピュータシステムが更新されました。すでに新しいシステムが3月から稼働しています。これは従来、総合情報処理センターと附属図書館のシステムとして導入していたものですが、今後は情報基盤センターが管理・運用することとなります。新システムは教育用サーバーと研究用サーバーの性能・運用効率向上、GUI(Graphical User Interface)端末を用いた教育環境の提供、学内バックボーンの高速度化と経路の冗長化による信頼性の向上、パスワードの一元化に向けた機器構成、一般教室と無線LANからのネットワーク利用拡大に備えた認証機器の導入、最新の不正侵入検知機器の導入など多くの特徴を持っており、より高度なサービスをより安全に提供するための設備が整えられました。

本学はe-Campusのモデル大学となることを中期目標の一つに掲げています。e-Campusとは、教育、研究、管理、運営などを効率的に行うための手段として、情報技術が非常に効果的に利用されている大学のことと考えられますが、この観点から見ると本学にはまだ数多くの課題が残されています。例えば、教室IT化のさらなる推進、無線LANアクセスポイントの増加、ID/パスワードの一元化、会議ペーパーレス化の徹底、紀要や学位論文の電子的公開などの課題がすぐに思い浮かびます。学生に対するサービス向上として、掲示板のIT化をさらに進めることも検討しなくてはなりません。少し将来的なこととして、これまで個別に構築されて来たいくつかの事務情報システムの連携を図り、使いやすい統合的なシステムとする問題や、電子博物館の開設などがあります。このような課題への取り組みと平行して、全学的な情報セキュリティの点検・強化も必要でしょう。

情報基盤センターは新コンピュータシステムを駆使して、より高度なサービスをより効率よく、より安全に提供するため、可能な限りの活動を行います。